

- ⑤ 菌の異常集積で検出レベル(閾値)を簡単に変更できるようになりました。
- ⑥ 菌の異常集積で複数のベースラインレートで自由に検索できるようになりました。自施設のベースラインレートで、時間的な集積や、特定病棟の集積を把握し、全国平均のベースラインレートで、他施設との比較が簡単にできます。

baseline rateの作成

開始日 [2004/06/28] 終了日 [2006/01/30] デフォルト値設定

BLR名称 院内患者単位 :2004/06/28~2006/01/30

備考

集計単位 患者単位 検体単位 JANIS

baseline rate 作成

警告レベルの設定

LEVEL3 [0.001]

LEVEL2 [0.005]

LEVEL1 [0.02]

LEVEL設定

baseline rate

院内・患者単位_2005/01/01~2005/12/31

クリア

- ⑦ 菌の異常集積でベースラインレートを閲覧したり、入出力できるようになりました。他の施設のベースラインレートを借りたり、ベースラインレートそのものを統計量として利用できます。

baseline rateの編集

編集するbaseline rateの選択

院内・患者単位_2006/01/01~2006/12/31

基本情報

BLR名称 院内・患者単位_2005/01/01~2005/12/31

備考

基本情報更新 baseline rate削除

菌一覧	菌名△	出現率△
1015	Yeasts	0.164179
1101	α-Streptococcus	0.33582
1102	β-Streptococcus	0.007462
1103	γ-Streptococcus	0.054726
1114	Streptococcus agalactiae	0.02985
1123	G群β-Streptococcus	0.004975
1132	Streptococcus pneumoniae (PRSP)	0.002487
1133	Streptococcus pneumoniae (PISP)	0.007462
1134	Streptococcus pneumoniae (PSSP)	0.014925

菌コード [1132] Streptococcus pneumoniae (PRSP)

出現率 [0.002487] 菌情報更新 菌情報削除

菌検索

菌コード [] クリア

菌名 [] 検索

baseline rateの入出力

CSVファイル入力

出力するBLR名称

院内・患者単位_2005/01/01~2005/12/31

CSVファイル出力

baseline rateの作成

開始日 [2004/06/28] 終了日 [2006/01/30] デフォルト値設定

BLR名称 院内:2004/06/28~2006/01/30

備考

集計単位 患者単位 検体単位 JANIS

baseline rate 作成

警告レベルの設定

LEVEL3 [0.001]

LEVEL2 [0.005]

LEVEL1 [0.02]

LEVEL設定

院内・患者	1			
1015	0.164179	402	66	
1101	0.33582	402	135	
1102	0.007462	402	3	
1103	0.054726	402	22	
1114	0.02985	402	12	

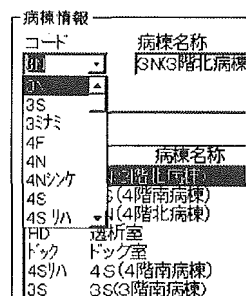
- ⑧ 検査材料別分離菌情報で、検体提出患者数、総検体数が集計されるようになりました。菌の陽性率を計算する分母として利用でき、行政からの要求に応えることが出来ます。

菌名	病院全体	呼吸器	気管内採尿	気管支洗浄液	咽頭拭液	その他(呼吸器)	自然採尿	尿道分泌物	カテーテル尿(採尿回数・留置カテ)	その他(泌尿・生殖)	糞便	胆汁	その他(消化管)
合計	1362	841	46	0	84	2	31	5	149	2	46	1	12
検体提出患者数	918	341	20	1	34	1	61	2	161	2	148	3	4
陽性患者数	807	338	19	0	33	1	28	2	91	1	37	1	4

菌名	病院全体	呼吸器	気管内採尿	気管支洗浄液	咽頭拭液	その他(呼吸器)	自然採尿	尿道分泌物	カテーテル尿(採尿回数・留置カテ)	その他(泌尿・生殖)	糞便	胆汁	その他(消化管)
合計	1588	979	47	0	87	2	31	5	159	2	47	1	12
検体提出数	1209	453	24	1	37	1	62	2	180	2	183	3	7
陽性検体数	859	445	22	0	36	1	29	2	106	1	49	1	5

- ⑨ 病棟マスター管理で送信されているコードがプルダウンメニューに出るようになりました。同じ病棟に複数コードを対応させる機能と合わせて漏れのないマスター管理が出来るようになりました。

- ⑩ 一つの病棟に対して複数のコードが送られてくる場合は、それらを一つの病棟にひも付けすることが出来ます。例えば、3階南病棟を示すコードとして「3S」「3ミナミ」「3F ミナミ」が送られてきてしまう場合でも、それらを全て病棟名称「3階南病棟」にひも付けて一つの病棟として扱うことが出来ます。



- ⑪ 病棟別分離菌などでマスターで対応していないコードを表に出すようにしました。⑨の機能と合わせて、マスターの漏れを防ぐことが出来ます。

菌名	病院全体	未入力	3N(3階北病棟)	3S(3階南病棟)	4N(4階北病棟)	4S(4階南病棟)	4F	4W	キョウキユ	シケカ
1011 Gram-positive cocci	4	0	1	1	2	0	0	0	0	0
1014 Gram-negative bacilli	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
1015 Yeasts	106	1	14	24	69	0	0	0	0	0
1101 Gram-negative cocci	228	1	27	28	170	0	1	0	0	0

★ 実際の操作方法

1) 問題菌の設定をしてみましょう。

(ア) 院内機能を起動します。

中小規模病院・感染監視システム
Version 1.00P3
施設名: 日高病院(MS100001)

日計票入力	病棟毎にその日のデータを入力します。入力したデータは「院内感染状況マップ」で利用できます。また、推移をグラフで表示できます。
検査データ解析	検査データの解析を行います。「異常発生検」 「PDRによる傾向解析」 「院内感染状況マップ」 「年間推移表」
集計表	各種条件下で検査データの集計を行います。「病棟別分類」 「年齢別分類」 「診療科別分類」 「検査材料別分類」 「感染種別レポート」 「菌種別感染分布」 「菌種別NIC分布」
検査データ修正	

メンテナンス 終了

(イ) メンテナンスを開きます。

メンテナンス画面

施設情報設定

施設情報登録	マップ用菌種情報設定
検査データ上書き禁止設定	問題菌情報
菌種情報設定	
診療科情報設定	削除データ復元

マスタの更新

システム内コードの更新	閉じる
-------------	-----

集計表 検査データ修正 メンテナンス 終了

(ウ) 問題情報を押すと問題菌設定画面が開きます。

問題菌リストの編集

問題菌情報

問題菌設定

問題菌追加 問題菌削除 問題菌検索 問題菌設定

問題菌リストの入力 問題菌設定の入力

(エ) 問題菌リストの編集の部分の左側、新規リスト作成ボタンを押すとリスト番号が割り振られます。

(オ) リスト名称、作成者、所属などを入力基本情報を入力し、基本情報の登録ボタンを押します。

(カ) リストの選択で登録したリストを選びます。

(R4 で、この部分の操作が必要なくなる可能性があります。R3 では選んで下さい。)

(キ) 設定する菌の選択をします。菌選択ボタンを押すか、菌名のエリア(下の図のマウスポインターのあるところ)をダブルクリックして下さい。

問題菌リストの編集

編集する問題菌リストの選択
MRSA

基本情報
 リスト名称 MRSA
 作成者 藤本修平
 所属 群馬大学
 作成日 2006/02/01
 取込日 2006/02/01 リスト番号 8

表示内容クリア | 基本情報の登録
 リストを削除 | 新規リスト作成

菌情報の編集
 グループ名

菌リスト | 表示内容クリア | 菌選択 | 薬剤感受性結果条件

菌名△

菌を登録から削除 | 菌情報の登録 | 薬剤感受性条件編集

(ク) 菌を選びます。

菌リスト 69件

1011 Gram-positive cocci
 1014 Gram-negative bacilli
 1015 Yeasts
 1101 α-Streptococcus
 1102 β-Streptococcus
 1103 γ-Streptococcus
 1114 Streptococcus agalactiae
 1120 Group β-Streptococcus
 1131 Streptococcus pneumoniae
 1132 Streptococcus pneumoniae (PRSP)
 1133 Streptococcus pneumoniae (PSP)
 1134 Streptococcus pneumoniae (PSSP)
 1200 Enterococcus sp.
 1201 Enterococcus faecalis
 1205 Enterococcus faecium
 1301 Staphylococcus aureus
 1303 Staphylococcus aureus (MRSA)
 1304 Staphylococcus aureus (MSSA)
 1311 Staphylococcus coagulase negative (ONS)
 1600 Neisseria sp.
 1651 Moraxella (Branhamella) catarrhalis
 2001 Escherichia coli

検索
 菌コード
 菌名
 問題菌

ソート コーフレ [△] | クリア | 検索

選択済み 1件
 1303 Staphylococcus aureus (MRSA)

選択 | 閉じる

選択ボタンを押します。

(ケ) 菌の登録をします。

菌情報の編集
 グループ名

菌リスト | 表示内容クリア | 菌選択 | 薬剤感受性結果条件

菌名△

1303 Staphylococcus aureus (MRSA)

菌を登録から削除 | 菌情報の登録 | 薬剤感受性条件編集

(コ) 菌(ここでは、MRSA)が登録されました。

問題菌リストの編集

編集する問題菌リストの選択
MRSA

菌情報の編集
グループ名

基本情報
リスト名称 MRSA
作成者 藤本修平
所属 群馬大学
作成日 2006/02/01
取込日 2006/02/01 リスト番号 8

表示内容クリア 菌選択 薬剤感受性結果条件
リストを削除 基本情報の登録 新規リスト作成
菌を登録から削除 菌情報の登録 薬剤感受性条件編集

登録済み菌リスト

菌リスト	菌名△	グループリスト	グループ名
1303	Staphylococcus aureus (MRSA)	1件	1

選択された菌を編集 選択されたグループを編集

(サ) 同じ問題菌「MRSA」に、他の菌 (*S. aureus* と MSSA) を登録してみます。

菌選択

菌リスト 69件

- 1011 Gram-positive cocci
- 1014 Gram-negative bacilli
- 1015 Yeasts
- 1101 α-Streptococcus
- 1102 β-Streptococcus
- 1103 γ-Streptococcus
- 1114 Streptococcus agalactiae
- 1123 G群β-Streptococcus
- 1131 Streptococcus pneumoniae
- 1132 Streptococcus pneumoniae (PRSP)
- 1133 Streptococcus pneumoniae (PISP)
- 1134 Streptococcus pneumoniae (PSSP)
- 1200 Enterococcus sp.
- 1201 Enterococcus faecalis
- 1205 Enterococcus faecium
- 1301 Staphylococcus aureus
- 1303 Staphylococcus aureus (MRSA)
- 1304 Staphylococcus aureus (MSSA)
- 1311 Staphylococcus coagulase negative (CNS)
- 1800 Neisseria sp.
- 1851 Moraxella (Branhamella) catarrhalis
- 2001 Escherichia coli

検索
菌コード
菌名
問題菌

ソート コード順 △ クリア 検索

選択済み 2件

- 1301 Staphylococcus aureus
- 1304 Staphylococcus aureus (MSSA)

選択 閉じる

(シ) これらの菌には MIPIC(オキサシリン)が耐性であるという条件を付けます。

感受性条件編集ボタンを押します。

菌情報の編集

グループ名

表示内容クリア | 菌選択 | 薬剤感受性結果条件

菌△	菌名△
1301	Staphylococcus aureus
1304	Staphylococcus aureus (MSSA)

菌を登録から削除 | 菌情報の登録 | 薬剤感受性条件編集

条件 R でオキサシリンを選び確定します。

薬剤感受性条件作成

1206 | オキサシリン

S | I | R | OR | AND | 確定

OR AND = 1206=R

抗菌薬リスト 252件

- 1100 モノバクタム系
- 1101 アズトレオナム
- 1106 カルボナム
- 1200 ペニシリン系
- 1201 ペンシリンペニシリン
- 1202 フェキシチルペニシリン
- 1203 プロピシリン
- 1206 ペンシリンペニシリンベンザチン
- 1207 メチシリン
- 1208 **オキサシリン**
- 1211 フェネチシリンガリウム
- 1212 クロキサシリン
- 1213 ジクロキサシリン
- 1214 フルクロキサシリン
- 1216 アンピシリン
- 1217 ヘタシリン
- 1221 パカンピシリン
- 1222 メジロイン

検索

菌コード

菌名

ソート コード順 | △ | クリア | 検索

クリア | 確認

登録 | 閉じる

登録を押します。

薬剤感受性条件作成

1208 | オキサシリン

S | I | R | OR | AND | 確定

OR AND = 1208=R

抗菌薬リスト 252件

- 1100 モノバクタム系
- 1101 アズトレオナム
- 1106 カルボナム
- 1200 ペニシリン系
- 1201 ペンシリンペニシリン
- 1202 フェキシチルペニシリン
- 1203 プロピシリン
- 1206 ペンシリンペニシリンベンザチン
- 1207 メチシリン
- 1208 **オキサシリン**
- 1211 フェネチシリンガリウム
- 1212 クロキサシリン
- 1213 ジクロキサシリン
- 1214 フルクロキサシリン
- 1216 アンピシリン
- 1217 ヘタシリン
- 1221 パカンピシリン
- 1222 メジロイン

検索

菌コード

菌名

ソート コード順 | △ | クリア | 検索

クリア | 確認

登録 | 閉じる

菌情報の登録ボタンを押します。

(ス) これで、登録が終わりました。

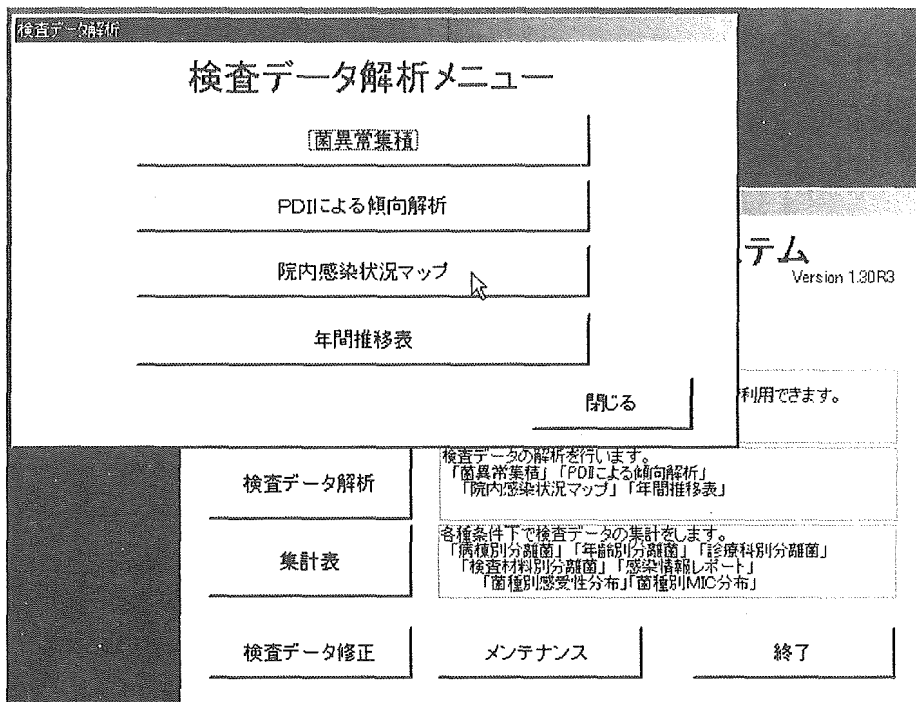
菌リストの条件は「または」です。

つまり、この例では、問題菌「MRSA」として MRSA として報告されているか、MSSA と報告されていて MIPIC が R か(こういう事があっては困りますが、)、あるいは、S. aureus として報告されていて MIPIC が R の菌が選択されるようになります。

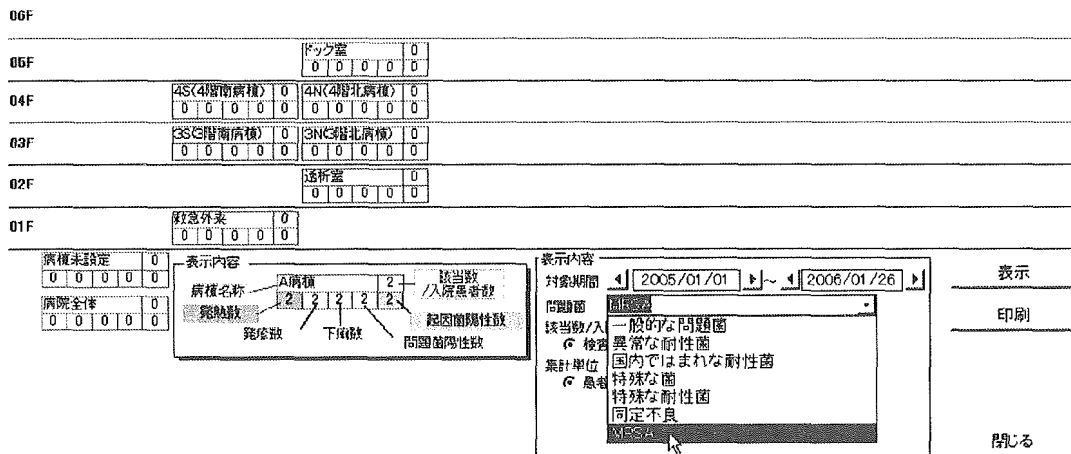
問題菌は例えば、*P. aeruginosa* 一菌種だけで薬剤感受性の条件なしでも登録できます。いくつでも登録できます。いつでも、削除できます。この菌が出ている人のリストが欲しいなと思ったら、ちょっと登録して、次の病棟感染状況マップでリストを出して見て下さい。

2) 問題菌が検出されている患者さんのリストを出しましょう。

(ア) 院内機能の検査データ解析から、感染状況マップを選びます。



(イ) 先ほど作った問題菌「MRSA」を選びます。



(ウ) 表示対象期間を指定します。日付のところをダブルクリックするとカレンダーが出てきます。

日付を選択してください

2005 1月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
27	28	29	30	31	1	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

選択日 2005/01/02

年月の移動

決定 取消

4S(4階南病棟)	0	4N(4階北病棟)	0
0	0	0	0
3S(3階南病棟)	0	3N(3階北病棟)	0
0	0	0	0
透析室	0		
0	0	0	0
救急外来	0		
0	0	0	0

表示内容

病棟名称	A病棟	2	該当数
発熱数	2	2	入院患者数
発疹数	2	2	起因菌陽性数
下痢数	2	2	問題菌陽性数

表示内容

対象期間 2005/01/02 ~ 2006/01/26

問題菌 MRSA

該当数/入院患者数及び発熱・発疹・下痢情報の取得元

検査データ 日計表データ

集計単位

患者単位 検体単位 JANIS

表示 印刷

(エ) 集計単位を選んで、表示を押します。下の例では一ヶ月間に「MRSA」がどの病棟で何人分離されたか病院合計を含めて一目で分かります。

05F	ドック室	0		
	0	0		
04F	4S(4階南病棟)	0	4N(4階北病棟)	24
	0	0	2	5
03F	3S(3階南病棟)	12	3N(3階北病棟)	10
	0	1	1	1
02F	透析室	0		
	0	0	0	0
01F	救急外来	0		
	0	0	0	0

表示内容

病棟名称	A病棟	2	該当数
発熱数	2	2	入院患者数
発疹数	2	2	起因菌陽性数
下痢数	2	2	問題菌陽性数

表示内容

対象期間 2005/12/01 ~ 2005/12/31

問題菌 MRSA

該当数/入院患者数及び発熱・発疹・下痢情報の取得元

検査データ 日計表データ

集計単位

患者単位 検体単位 JANIS

(オ) 黄色い問題菌の人数のところをダブルクリックします。リストがポップアップしてきます。印刷、CSV 出力が出来ます。

問題菌陽性リスト											
問題菌リスト名: MRSA		検体提出数: 84		検体提出患者数: 47		菌陽性検体数: 49		菌陽性患者数: 33			
病棟名: 病院全体		問題菌陽性検体数: 7		問題菌陽性患者数: 6		日付: 2005/12/01 ~ 2006/12/31		菌検出数: 87			
検体番号	200512120419669	ID	20506770	病棟	3S(3階南病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/12	氏名		診療科	22	性別	女	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512180419391	ID		病棟	3S(3階南病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/16	氏名		診療科	22	性別	女	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512070419209	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/07	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512090419400	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/09	氏名		診療科	6	消化器	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料
検体番号	200512100419538	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/10	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512270419524	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/27	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512270419595	ID	S9007174	病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	

問題菌陽性リスト

問題菌陽性リスト											
問題菌リスト名: MRSA		検体提出数: 84		検体提出患者数: 47		菌陽性検体数: 49		菌陽性患者数: 33			
病棟名: 病院全体		問題菌陽性検体数: 7		問題菌陽性患者数: 6		日付: 2005/12/01 ~ 2005/12/31		菌検出数: 87			
検体番号	200512120419669	ID	20506770	病棟	3S(3階南病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/12	氏名		診療科	22	性別	女	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512180419391	ID		病棟	3S(3階南病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/16	氏名		診療科	22	性別	女	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512070419209	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/07	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512090419400	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/09	氏名		診療科	6	消化器	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料
検体番号	200512100419538	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/10	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512270419524	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/27	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	
検体番号	200512270419595	ID		病棟	4N(4階北病棟)	年齢	入院外来 入院	病名	1303 Staphylococcus aureus (MRSA)	主治医	
検体提出日	2005/12/27	氏名		診療科	22	性別	男	入院日	0000/00/00	検査材料	

(カ) 一年分の情報も、簡単に手に入ります。

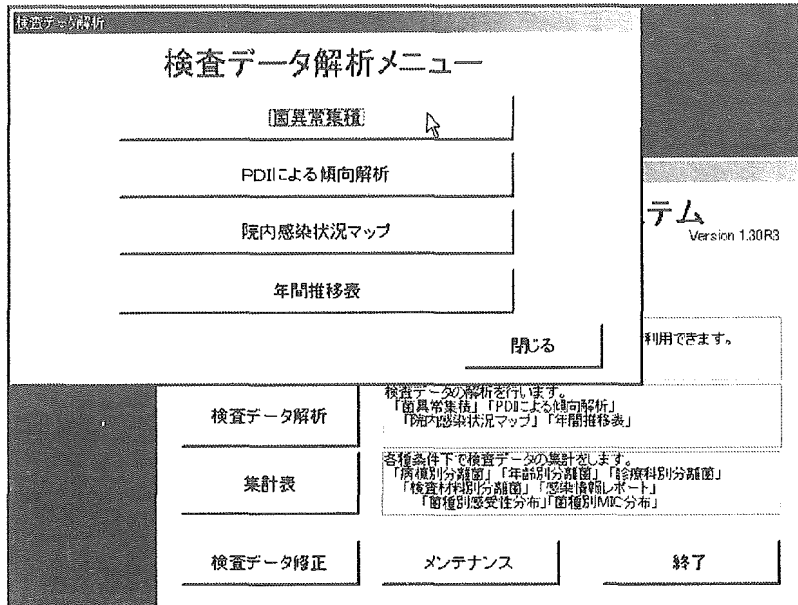
06F	ドック室	0
	0	0
	0	0
04F	4S(4階南病棟)	17
	0	0
	0	1
	2	0
	0	0
	0	0
	20	41
	6	
03F	3S(3階南病棟)	109
	0	0
	4	16
	2	
	0	0
	0	8
	7	3
02F	透析室	0
	0	0
	0	0
01F	救急外来	0
	0	0
	0	0
	0	0

病棟未設定	31
0	0
0	7
1	1
菌陽性検体	402
0	0
38	58
12	

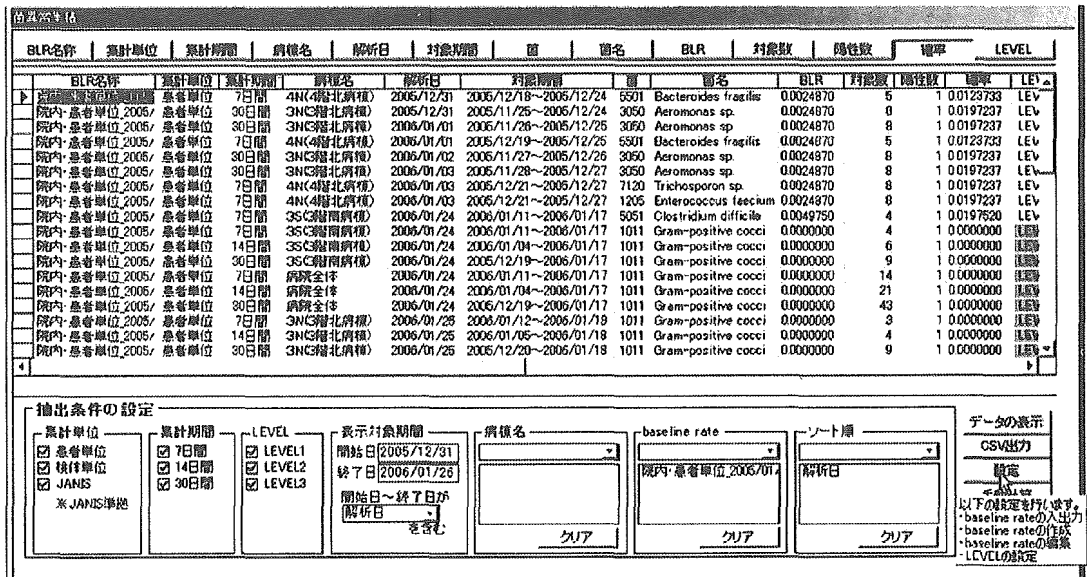
表示内容	菌種	2	2	2	2	2	2	検出数
発症数	2	2	2	2	2	2	2	菌陽性患者数
下痢数								問題菌陽性数

表示内容	対象期間	2005/01/01	2005/12/31	表示
問題菌	MRSA			印刷
該当病/入院患者数及び発熱・発疹・下痢情報の取得元				
検査データ	日計表データ			
集計単位	患者単位	検体単位	JANIS	

- 3) 自施設のベースラインレートを作って利用しましょう。
 (ア) 検査データ解析の菌の異常集積を開きます。



- (イ) 設定を選びます。(ボタンの上で少し待つとヘルプが出ます。)



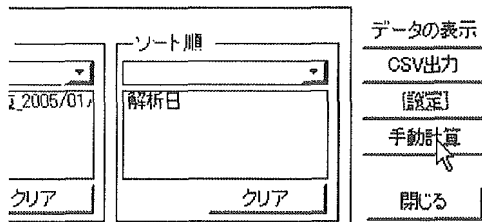
- (ウ) 設定画面の右中段に baseline rate の作成という部分があります。

(エ) 集計期間と名称を決定します。

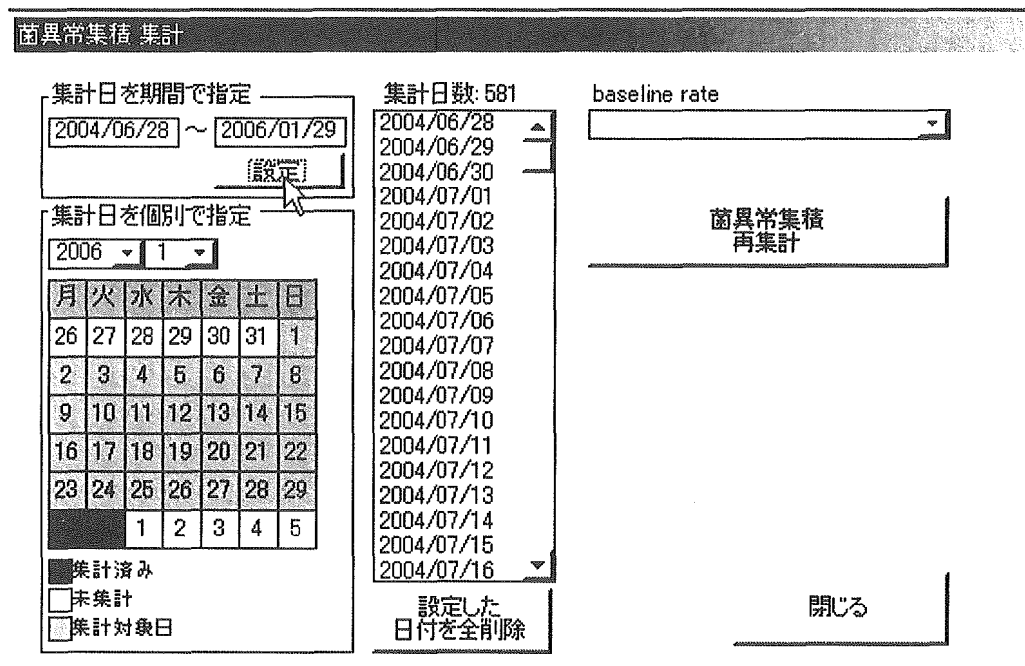
名称に集計単位(患者単位、検体単位など)をいれておくと良いでしょう。

期間は、適当な1年程度(出来れば、余り大きな outbreak の無かった期間が良いでしょう)を取り、集計単位は患者単位が必須、後は、JANIS、検体単位の順で考えて下さい。集計は、あっという間に終わります。変更は一年に一度未満ですから、全部出しておいても良いかもしれません。

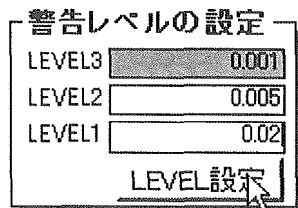
(オ) 新しいベースラインレートの作成が済んだら、集計に反映させるために必ず手動計算を行って下さい。その日以降は、自動入力が起動している限り、毎日自動で計算されます。手動計算のボタンを押します。



(カ) 菌異常集積集計(再集計の設定=手動計算の設定)が開きます。下のカレンダーをクリックすると右側の集計日のリストに日付が入ります。期間で指定の日付の部分をクリックするとカレンダーが出て期間指定の開始日終了日を指定できます。設定を押すと期間内のそれぞれの日付が集計日のリストに入ります。菌の異常集積再集計ボタンを押すと、集計が始まります。通常は、baseline rate は選ばないでおくので(全ての baseline rate で計算する)良いでしょう。特定の baseline rate だけ再計算すればいいときは指定して下さい。新しいバージョンがリリースされたときは、再計算する必要があるか、開発元に問い合わせして下さい。



(キ) 警告レベル(閾値)の設定も、簡単にできるようになりました。



(ク) 適切な抽出条件で抽出します。

自施設の baseline rate で集計する場合は、その baseline rate だけを選びます。集計単位は通常は患者単位だけで良いでしょう

抽出条件の設定

集計単位 <input checked="" type="checkbox"/> 患者単位 <input type="checkbox"/> 検体単位 <input type="checkbox"/> JANIS ※ JANIS準拠	集計期間 <input checked="" type="checkbox"/> 7日間 <input checked="" type="checkbox"/> 14日間 <input checked="" type="checkbox"/> 30日間	LEVEL <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL1 <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL2 <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL3	表示対象期間 開始日 [2006/01/24] 終了日 [2006/01/31] 開始日~終了日が 解析日 を含む	病種名 [] クリア	baseline rate [院内・患者単位 2005/01/] クリア	ソート順 [解析日] クリア	位三次の表示! <input type="checkbox"/> CSV出力 <input type="checkbox"/> 設定 <input type="checkbox"/> 手動計算 <input type="button" value="閉じる"/>
--	---	---	--	-------------------	---	----------------------	---

表示は、自由にソートをすることが出来ます。

(ケ) ベースラインレートの入出力閲覧を行うにはそれぞれの部分でプルダウンメニューでベースラインレート名 (BLR 名称と書いてある) を選んで下さい。

baseline rateの編集

編集するbaseline rateの選択
 [院内・患者単位 2005/01/01~2005/12/31]

基本情報
 BLR名称 [院内・患者単位 2005/01/01~2005/12/31]
 備考 []

菌一覧

菌△	菌名△	出現率△
1015	Yeast	0.164179
1101	α-Streptococcus	0.39582
1102	β-Streptococcus	0.007462
1103	γ-Streptococcus	0.054726
1114	Streptococcus agalactiae	0.02985
1123	G群β-Streptococcus	0.004975
1132	Streptococcus pneumoniae (PRSP)	0.002487
1133	Streptococcus pneumoniae (PSP)	0.007462
1134	Streptococcus pneumoniae (PSSP)	0.014925

菌コード [1132] [Streptococcus pneumoniae (PRSP)]
 出現率 [0.002487]

菌検索
 菌コード []
 菌名 []

baseline rateの入出力

出力するBLR名称
 [院内・患者単位 2005/01/01~2005/12/31]

baseline rateの作成

開始日 [2004/06/28] 終了日 [2006/01/30]
 BLR名称 [院内 2004/06/28~2006/01/30]
 備考 []

集計単位
 患者単位
 検体単位
 JANIS

警告レベルの設定

LEVEL3 [0.001]
 LEVEL2 [0.005]
 LEVEL1 [0.02]

新しい機能が皆様のお役に立つように願っています。

平成 18 年 2 月 2 日(木)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

中小規模病院・感染監視システム

院内機能操作手順書

(Ver.1.20)

2005年10月

1.	概要	3
2.	ご注意	3
I.	画面構成について	3
II.	動作環境	3
3.	システムの起動と終了	4
I.	院内機能プログラムの起動	4
II.	院内機能プログラムの終了	4
4.	各画面の機能	5
I.	メニュー画面	5
II.	日計表入力画面	5
III.	検査データ解析画面	6
IV.	菌異常集積画面	7
V.	集計オプション画面	8
VI.	菌異常集積 集計画面	11
VII.	PDI 選択メニュー画面	15
VIII.	PDI データ解析画面	16
IX.	感染状況マップ画面	17
X.	年間推移表画面	18
XI.	集計表メニュー画面	19
XII.	検査データ修正画面	20
XIII.	詳細入力画面 (患者基本データ)	22
XIV.	詳細入力画面 (感染症データ)	23
XV.	詳細入力画面 (抗菌薬データ)	24
XVI.	詳細入力画面 (基礎疾患に関するデータ)	25
XVII.	詳細入力画面 (デバイスデータ)	26
XVIII.	詳細入力画面 (検体データ)	27
XIX.	詳細入力画面 (菌データ)	28
XX.	詳細入力画面 (退院サマリデータ)	29
XXI.	詳細入力画面 (予備領域拡張)	30
XXII.	詳細入力画面 (検査項目)	31
XXIII.K)	詳細入力画面 (データの由来)	31
XXIV.	メンテナンス画面	32
XXV.	施設情報登録画面	33
XXVI.	検査データ上書禁止設定画面	34
XXVII.	病棟情報設定画面	35
XXVIII.	診療科情報設定画面	36
XXIX.	マップ用病棟情報設定画面	37
XXX.	削除データ復元画面	39
XXXI.	システム内コードの更新画面	40
5.	問い合わせ	40

1. 概要

- ① 本システムは、全国サーベイランスの対象となっていない中小規模(100～200 床)の病院を対象に、検査室をコントロールタワーとした効率の良い院内感染サーベイランスシステムを構築し、病院内スタッフの院内感染に対する知識や対応などのレベルアップを図ることを目的とする。
- ② 検査会社での検査結果データを同社内 PC に保存すると、病院内の本システムから取得して内容のチェックを行いDBに取り込む処理を自動的に実施する。この際のエラー情報なども、取り込み結果として検査会社内 PC に自動的に保存する。(自動入力機能)
- ③ 前項により取り込んだ検査結果データを閲覧または修正することができ、日計表データなどを補完することにより、各種の解析表等を表示、印刷できる。(院内機能)

2. ご注意

I. 画面構成について

- ・ ご利用のシステム装置により、画面構成等が異なる場合があります。詳細はご利用機器のマニュアル等を参照願います。

II. 動作環境

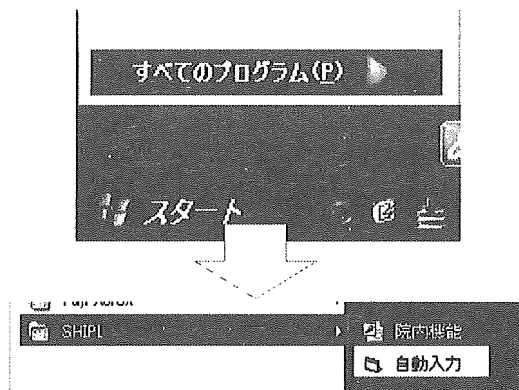
本システムの動作環境として、以下のシステムが必要となります。

- ・ システム装置(Microsoft Windows 対応)
- ・ オペレーティングシステム(Windows2000Server 推奨)
- ・ Microsoft SQLserver2000
- ・ Microsoft Access2003
- ・ Microsoft Excel2003

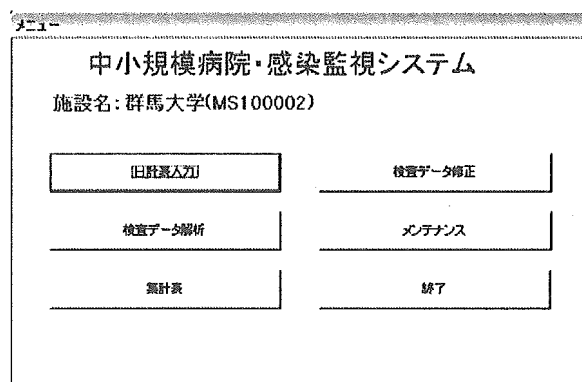
3. システムの起動と終了

I. 院内機能プログラムの起動

- ① 「スタート」メニューより「すべてのプログラム(P)」を選択し、一覧より「SHIPL」→「院内機能」を選択します。



- ② メニュー画面が表示されます。

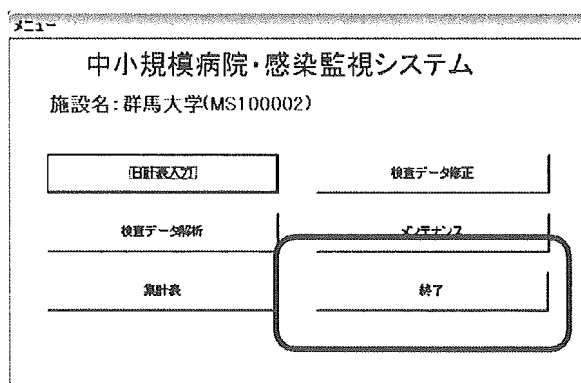


※施設名欄に「施設コードが未登録です」の表示が出る場合は、検査データ自動入力プログラムでの施設情報設定を行うか、または「メンテナンス」、「施設情報登録」から当該施設の選択/設定を行ってください。

検査データ自動入力プログラムでの施設情報設定については、自動入力機能操作説明書・P.4の(カ)項目を参照してください。

II. 院内機能プログラムの終了

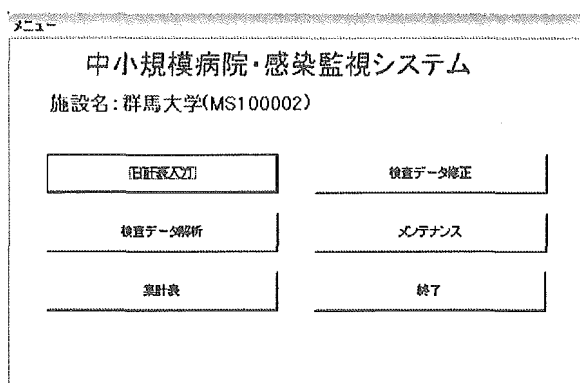
メニュー画面より、「終了」ボタンをクリックします。



4. 各画面の機能

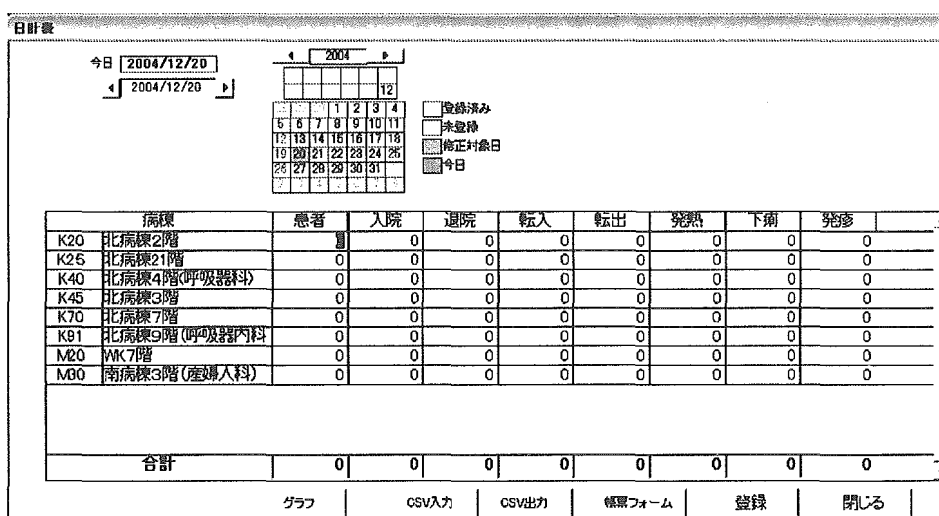
I. メニュー画面

メニュー画面の各機能は以下の通りとなります。



- ・「日計表入力」ボタンを押下すると、日計表入力画面が表示されます。
- ・「検査データ解析」ボタンを押下すると、検査データ解析画面が表示されます。
- ・「集計表」ボタンを押下すると、集計表メニュー画面が表示されます。
- ・「検査データ修正」ボタンを押下すると、検索画面が表示されます。
- ・「メンテナンス」ボタンを押下すると、メンテナンス画面が表示されます。

II. 日計表入力画面



- ① 「今日」欄とその直下に、処理当日の日付が表示されます。
「今日」欄直下の表示は左右のボタンにより前日、翌日に変更でき、その操作に応じて画面内の各表示が更新されます。
- ② カレンダー上部に、処理当日の日付を基にした年、月が表示され、カレンダーには当該月の日計表データ入力の有無が日ごとに表示されます。
 - i) 年表示の左右のボタンにより前年、翌年に変更できます。
 - ii) 月表示では、各欄をクリックすると当該月に変更できます。
 - iii) カレンダー表示では、各欄をクリックすることにより日付を変更でき、前月または翌月に相当する日付欄をクリックすると当該月表示に変更することができます。